

令和6年度事業報告書

1 令和6年度法人運営の概況

令和6年度の事業については、公益目的事業で、地球温暖化対策、生物多様性の確保、良好な生活環境等の面で重要となっている都市の緑を保全・創出するため、京都市緑の基本計画等に基づく活動を引き続き推進した。

公1事業では、指定管理者である京都市梅小路公園、宝が池公園子どもの楽園及び円山公園を中心として、都市緑化に関する各種事業、公園を生かした緑のイベントの開催等を行った。公2事業では、日本庭園の良好な保全管理とともに、京都の庭園文化の情報発信等を行った。両事業にまたがる梅小路公園「朱雀の庭・いのちの森」は、長年のモニタリング活動や地域の生きものの文化の保全に資する取組が評価され、京都市の施設としては初めて環境省「自然共生サイト」(※)の認定を受けることができた(令和6年度前期)。

公園収益事業では、公益目的事業を支えるため、上記の3公園、深草墓園及び国立京都迎賓館庭園を中心として収益の確保に努めた。

法人業務では、評議員会を1回、理事会を2回、オンライン併用で行った。また、京都市受託事業における個人情報保護に関する通知を契機に、個人情報取扱事務の一層の改善を図った。

経営収支面においては、経常収益計は426,658千円、前年度比75千円増で、前年度に引き続き4億円を超え底堅く推移した。事業収益は、前年度から受託継続できなかった事業が1件あったが、他の受託事業での契約金額の増加で微減にとどまった。また、夏季の酷暑(京都市内の猛暑日数7月18回、8月21回、9月14回)や休日の悪天候により公園利用が減り、事業収益のうち利用料金収益は微減した。

経常費用計は428,302千円、前年度とほぼ横ばいだった。このうち事業費は、消耗品費、消耗什器備品費、印刷製本費など、物価高での経費節減の努力により、前年度比で微増に抑えることができた。

これらの結果、当期一般正味財産増減額は344千円の黒字(前年度増減額は1,720千円の赤字)であり、2年連続の赤字から改善した。

(※)自然共生サイト…企業の森、里地里山、都市の緑地など「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を環境省が認定する制度(令和6年度まで)。令和7年4月施行の地域生物多様性増進法により、企業等の実施計画を主務大臣(環境、国土交通、農林水産の3省)が認定する制度となった。

2 令和6年度の事業実施状況

I 公益目的事業

決算額 268,053 千円 (予算額 263,907 千円)

I-1(公1)都市緑化の普及啓発、緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりに寄与する事業

決算額 239,723 千円 (予算額 240,192 千円)

都市緑化の普及啓発、緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりを目的として、管理運営

する公園等を拠点として、各地域において講習会、イベント、広報その他様々な事業を行った。

(1) 園芸・造園に関する人材育成

ア 園芸講習会(前期・後期)

市民を対象として、園芸、造園など緑化に関連する技術・知識の普及を図った。
前年度に引き続き、(公財) 京都 SKY センターと共催し、同センター会員の参加も得て1日2回開催。

- ・講師 花と緑の普及員 駒井修
- ・受講者 前期 247 人／後期 240 人 ・参加者数計 487 人

	回	開催日	実施内容
前期	第1回	5月23日	ハンギングバスケット
	第2回	6月20日	初夏から秋に咲く花の育て方と寄せ植え
	第3回	7月18日	草花の繁殖方法と夏から秋に咲く花の育て方と寄せ植え
	第4回	8月22日	多肉植物の育て方と寄せ植え
後期	第1回	10月17日	秋咲き草花の育て方と寄せ植え
	第2回	11月14日	秋植え球根の育て方と寄せ植え
	第3回	2月27日	冬咲き草花の育て方と寄せ植え
	第4回	3月27日	春咲き草花の育て方と寄せ植え

イ プランター菜園教室(前期・後期)

玄関周りやベランダ等で楽しむ家庭菜園づくりの方法を学ぶ講習会。前期、後期ともに1日2回開催した。

- ・講師 花と緑の普及員 駒井修
- ・受講者 前期 136 人／後期 131 人 ・参加者数計 267 人

	回	開催日	実施内容
前期	第1回	4月18日	青シソ、伏見トウガラシ、ミニトマト、ラディッシュ等の育て方、播種、植付け
	第2回	5月9日	カラーピーマン、千両ナス、チンゲンサイ、モロッコインゲン等の育て方、播種、植付け
	第3回	6月6日	イタリアンパセリ、コマツナ、サツマイモ、スイートバジル等の育て方、播種、植付け
後期	第1回	8月29日	小カブ、九条ネギ、大根、ローズマリー等の育て方、播種、植付け
	第2回	9月19日	茎ブロッコリー、パセリ、カイワレ大根、伏見寒咲花菜等の育て方、播種、植付け
	第3回	10月10日	京壬生菜、中葉春菊、絹莢エンドウ(矮性)、リーフレタス等の育て方、播種、植付け

ウ 園芸セルフケア教室

園芸療法士の指導により、公園花壇等の植物の手入れを通して自身の健康チェックと生活リズムを整える教室。

- ・講師 花と緑の普及員 寺田裕美子 ・開催日 毎週木曜日
- ・受講者 52 人 ・参加者数のべ 706 人 (48 回)

エ 地域での出張園芸講習会等

地域団体や学校等での出張講習の開催協力及び講師を派遣した。(下表は実施例)

テーマ／団体（場所）	開催日	人数	備考
キクタニギク定植、育て方／京都文教小学校	6月19日	30人	まちなみ緑化等支援(円山公園関係)
夏～秋の寄植え(単独)／SKYシニア大学	7月23日	30人	実践講座「農園芸活動体験」の1講座
キクタニギク植え付けの実習／京都文教大学宇治市高齢者アカデミー	10月2日	15人	まちなみ緑化等支援(円山公園関係)
花壇への草花、球根植付け／七条第三学区社会福祉協議会	10月20日	60人	まちなみ緑化等支援
フジバカマの学習と植付け／朱雀第四小学校	10月23日	57人	中京区地域愛とみどりを育てる環境学習
八坂神社白朮詣りとオケラの学習、収穫と植付け／開晴小中学校環境委員会	10月28日	28人	まちなみ緑化等支援(京の生きもの文化再生協働プロジェクト)
京野菜ミズナの学習と植付け／朱雀第七小学校	10月29日	59人	中京区地域愛とみどりを育てる環境学習
フジバカマの学習と植付け／朱雀第八小学校	10月30日	85人	中京区地域愛とみどりを育てる環境学習
京野菜ミズナ植付け／朱雀第三小学校	10月31日	38人	中京区地域愛とみどりを育てる環境学習
キクタニギクの冬越し作業／京都府立大学下鴨農場	12月9日	10人	農業サークル畑はた(円山公園関係)
キクタニギクの冬越し作業／京都文教小学校	12月9日	30人	まちなみ緑化等支援(円山公園関係)
正月の寄植え講習会／淳風地域女性会	12月12日	15人	緑のまちづくり支援業務
キクタニギクの冬越し作業／京都文教大学宇治市高齢者アカデミー	12月16日	15人	まちなみ緑化等支援(円山公園関係)
コケ玉作り講習会／皆山地域女性会	12月21日	18人	まちなみ緑化等支援
花壇づくり活動の出張相談／菊浜連合会	12月26日	3人	緑のまちづくり支援業務

(2) 自然環境に関する講習会・体験活動

ア 体験型講習会、自然観察会等

自然観察会、プレイパークでの子ども及び家族向け自然あそび教室等を開き、自然環境に根差した地域の歴史や生活文化を学ぶプログラムも行った。

a 梅小路公園自然観察会の実施

様々な生き物に親しみ、自然の仕組みを理解いただくことを目的として、ビオトープ「いのちの森」をはじめとする公園内での自然観察会を実施した。講師は京都ビオトープ研究会いのちの森モニタリンググループ。

① 月例等定期的観察会

・各回の実施内容（計12回・参加者計211人）

開催日	テーマ	開催日	テーマ
4月20日	植物の観察	10月19日	植物の観察
5月18日	植物の観察	11月16日	植物の観察
6月15日	きのこの観察	12月21日	植物の観察
7月20日	植物の観察	1月18日	野鳥の観察
8月17日	植物の観察	2月15日	植物の観察
9月21日	きのこの観察	3月15日	植物の観察

② 子ども緑の学校～梅小路公園子ども自然観察会

植物の生長を見守りながら、稲の田植、収穫、脱穀の体験、きのこ観察、ヒオウギ観察などを行う全7回シリーズ。小学生を対象とした。

・受講者 30人 ・参加者数のべ127人

6 宝が池公園自然あそび教室

① 子どもの楽園周辺の自然を生かした教室等

子どもの楽園とその周辺の自然環境を生かし、遊びながら学べる教室を実施。自然観察、クラフト、自然の仕組みや生活文化等を学ぶ多彩なプログラム。

- ・開催日 原則第2・第4土曜日
- ・実施回数 計34回 ・のべ参加人数 581人
- ・プログラムの例

ツツジに染まる宝が池ハイキング、春の野鳥観察、土の中のちいさないきものたち、竪穴式住居リニューアル、初夏の虫たちの世界をたずねよう、川であそぼう・生き物をさがそう、ナイトウォッチング・セミ羽化観察、宝が池デイキャンプ、お月見をしよう、土器をつくろう、秋の草木染をたのしもう、どんぐり・あく抜きとクッキーづくり、かんたん炭焼きアートを楽しもう、雪遊び・雪のハイキング等

イ 宝が池連続学習会

「森をしらべる・森をそだてる・森をつたえる」ため、当協会が参画している「宝が池の森」保全再生協議会とともに、里山問題、水域環境、自然共生サイトの意義等を座学とフィールドワークで考える学習会。

- ・共催 京都府立大学森林科学科、「宝が池の森」保全再生協議会
- ・場所 上高野防災会館、宝が池公園等
- ・参加者数 のべ 87人

回	開催日	内 容／ 講 師 （敬称略）
第1回	6月23日	宝が池の森の姿～現状と課題～外国の里山からみる人と森の姿
第2回	7月14日	宝が池周辺の水域環境を知る～宝が池の森と池・川をつなぐ生きものたち
第3回	9月22日	湿地再生と宝が池の環境改善にむけて
第4回	10月27日	「自然共生サイト」登録に向けて①～豊かなみどりを活用していくための行政計画
第5回	12月22日	「自然共生サイト」登録に向けて②～都市公園の「自然共生サイト」への登録事例にまなぶ
第6回	1月19日	楽しく実践！野鳥の森で森の保全再生

(3) 花とみどりの相談所(緑の相談所)運営

ア 相談業務

植物、園芸等に関する技術的な無料相談を梅小路公園で行っている。件数（内容別）は前年より7.1%減少し、面談による相談の割合も前年度相談35.8%から18.4%に減少した。

- ・相談日 毎週2日（水曜日、土曜日）及び出張相談
- ・時 間 午前10時～午後4時まで（面談又は電話による。）
- ・相談員 植村久美子、西原美貴子

相談日数 104日 相談件数（内容別）514件

イ 京都ゆかりの希少植物の保全・普及

各地の団体・個人と連携し、京都の歴史文化に密接に関係している希少な山野草等の保全・繁殖に取り組み、京都市生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度の認定団体など、希少植物保全を行う団体に対して出張相談、その他の協力を行った。

a 希少植物保全団体への協力

京都市生きもの文化協働再生プロジェクト認定団体等からの相談を随時受けた。

b 施設・環境イベント等での普及啓発活動

京都駅ビル「緑水歩廊」(11月21日～26日)、京都御苑閑院宮邸前(11月28日～12月3日)でキクタニギクを展示。(京都駅ビル開発(株)、(一財)国民公園協会京都御苑、KESエコロジカルネットワーク協力)

都市緑化月間 京都市役所北別館ロビー啓発展示 10月21日～10月31日
フジバカマ展示に協力。

c 八坂神社のをけら再生プログラムへの協力

大晦日の八坂神社をけら詣りで用いる希少植物オケラが入手困難になっている。本殿内に1株だけ残っている株の保全繁殖に本協会が協力しており、開晴小中学校の児童生徒が育てる株から根茎(生薬ビャクジュツ)が本年度も収穫でき、12月24日に八坂神社に寄贈、祭事で使ってもらうことができた。(呼びかけ・NPO 国境なき環境協働ネットワーク、技術協力・武田薬品工業(株) 京都薬用植物園)

d 京都伝統文化の森推進協議会による東山・菊溪の森づくりへの協力

「京都伝統文化の森推進協議会」(事務局・京都市)が林相改善の一環として高台寺山国有林内の菊溪川支流でキクタニギク植栽を行う「キクタニギクの咲く菊溪の森づくり」を3月15日に行った。本協会は苗約120株をKES生物多様性プログラム(下記ウ)参加企業・団体の提供により確保するなどの協力を行った。

ウ KES 生物多様性プログラムへの参画

KES(京都環境マネジメントシステム・スタンダード)の認証登録を行う特定非営利法人KES環境機構が実施する生物多様性プログラム「KESエコロジカルネットワーク」の企画・実施に参画している。6年度は計250の事業所が参加した。このうち希少植物の生息域外保全活動について、植物6種の確保や栽培相談等の協力を行った。

- ・ネットワーク構成団体 京のアジェンダ21フォーラム((公財)京都市環境保全活動推進協会)、京都市、京都駅ビル開発(株)、KES環境機構及び本協会

エ 公益社団法人日本植物園協会の活動

(公社)日本植物園協会に加盟し、希少植物保全等の活動について情報交換、相互協力を行い、普及啓発や栽培技術等に関する研修に参加している。また、京都府及び滋賀県内の会員園でつくる「在京滋植物園情報交換会」は6年度、梅小路公園(本協会)がホスト園となり、自然共生サイトの意義を考えるミニセミナーを行った。

- ・第59回大会・定時総会参加 5月23～25日(水戸市植物公園ほか)
- ・在京滋植物園情報交換会 2月19日(梅小路公園) 参加者7園47人
ミニセミナー(テーマ「自然共生サイト」と植物園)／各園活動報告／交流会
セミナー講師 森本幸裕理事長(環境省自然共生サイト審査委員長)

(4) 緑のイベントの開催及び支援

緑に関連する団体の協力、(公社)京都市観光協会、京都市交通局、JR西日本、京都新聞、KBS京都の後援などの連携を得ながら、植物、緑の文化、公園緑地の多面的な大切さを訴えた。

ア みどりの月間、都市緑化月間等のイベントの開催、協力

a 梅小路公園グリーンフェア 2024 春／秋

みどりや広々とした空間など公園のもつ心地よさ、安らぎ、にぎわいを多くの人に感じていただくため、春と秋の2回実施。

開催日		天候	来場者数
春	5月3日、4日	晴	51,400人
秋	10月5日、6日	晴	35,100人
			計 86,500人

b 春の和の花展、藤袴と和の花展

- ・第13回「春の和の花展」(4月20日～5月6日) 1,216人
- ・第14回「藤袴と和の花展」(9月27日～10月14日) 1,775人
- ・藤袴保全団体交流会(サミット) 10月4日 協力・源氏藤袴会
1998年に京都市内で見つかったフジバカマの保全の輪は各地に大きく広がったが、多くの保全団体が担い手の高齢化や気候の変化の影響に直面していることから、保全団体が集い、意見交換する場として開催。
基調講演 藤井肇氏(京都府希少野生生物保全推進員) 参加 16団体57人

c 梅まつり in 梅小路

梅の開花期(2月14日～3月2日)に梅林散策ルートマップを掲示して、自由に散策できるようにした。

d 第36回京都まちとみどり写真コンクール

京都府都市計画協会主催、京都府・(公財)京都府公園公社共催により毎年10月の都市緑化月間に行われるコンクールで、本協会は後援を行った。

イ「きょうと☆いのちかがやく博物館」連携事業への参加

次世代向けに生きものの保全に関する普及啓発を行う「きょうと☆いのちかがやく博物館」(京都市動物園、京都府立植物園、京都水族館、京都市青少年科学センターの4園館)の包括交流連携協定に、令和5年より、梅小路公園「いのちの森」(京都市建設局所管)及び「きょうと生物多様性センター」(府・市共同設置)が実質的に参画することとなり、本協会は公園指定管理者、いのちの森モニタリング活動の協力団体として、関連行事への出展(いのちの森紹介パネル展示、クイズ実施等)を行った。このうち7月は「梅小路公園手づくり市」の中にブースを設けて実施した。

【参加イベント例】野生動物学のすすめ(4月13日、京都市動物園)「きょうと☆いのちかがやく博物館」in 梅小路公園手づくり市(7月6日)、植物園いきものフェス及びきょうと☆いきものフェス!(9月28～29日、京都府立植物園)、科博連サイエンスフェスティバル(2月2日、京都市青少年科学センター)

(5) 市街地緑化事業

ア まちなみ緑化等支援事業

まちなみ修景のため、和の花や和のイメージの容器を、施設、住宅、事業所等の敷地に設置し管理していただく活動や環境対策として、花と緑による修景や地域の交流を図る活動への支援等を行った。(一部は(1)エに重複掲載)

イ 御池通スポンサー花壇巡回管理業務

京都市のシンボルロードである御池通を企業等のスポンサーの寄付により、四季の花

で彩る京都市御池通スポンサー花壇事業（花壇基数 102 基）について、沿道の事業者や市民ボランティアが行う花壇の巡回管理の補助、ニュース発行等の普及啓発を行う業務を受託した。

- ・全面植替え 3 回、巡回管理補助のべ 56 回
- ・ニュース（スポンサー花壇だより等）発行 8 回、講習会 1 回

(6) 緑のボランティア団体の活動支援（京都市緑のボランティアセンター）

各地の緑のボランティア団体の活動を支援するための緑のボランティアセンター窓口運営を含む京都市緑のまちづくり支援業務を引続き受託した。有志団体、京都市の公園愛護協力会等に、ニュースレターや『京のみどり』等を通じた情報提供、京都市設置の和の花モデル花壇、雨庭の管理を行う団体への支援等を行った。交流イベントは、「手入れする人に配慮した花壇の考え方・つくり方」についての講演（寺田裕美子普及員）と梅小路公園でのボランティア花壇の見学を行った。

- ・実績 相談 22 件、ニュースレター発行 4 回、出張相談・講習 13 件、モデル花壇共同作業 6 回、交流イベント 1 回（3 月 27 日、梅小路公園緑の館）

また、梅小路公園の花壇管理や福祉施設での園芸活動に活躍する「京都みどりクラブ」が令和 6 年秋の褒章に京都市から国土交通省を通じて推薦され、緑綬褒章を受章された。（褒章伝達式及び拝謁 11 月 13 日）

(7) 公園緑地の利用促進及び多目的な機能の向上に寄与する事業

安全安心に利用いただけるよう施設維持に努めるとともに、公園周囲を含めた多様な関係団体との連携・協力により、公園の多目的な機能の向上に努めた。

ア 梅小路公園指定管理業務及び関連業務

遊戯用電車（チンチン電車）運行业務も含めた、梅小路公園の管理業務をおこなった。また、「朱雀の庭・いのちの森」について、京都市及び京都ビオトープ研究会モニタリンググループと連携し、京都市が統括責任者として環境省「自然共生サイト」の認定申請を行い、6 年度前期の認定（10 月 21）を受けた。

イ 梅小路公園及び周辺エリアの活性化等に関する事業

公園内の施設管理者でつくる「梅小路公園・施設管理者連絡会」、エリアマネジメント団体である「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト（京都・梅小路まちづくり推進協議会）」、「京都・七条通賑わいづくり協議会」、「(株) 梅小路まちづくりラボ」、及びこれらの団体の活動団体への支援を行う「京都駅西部エリアまちづくり協議会」（代表・森本幸裕・本協会理事長。商店街、自治連合会、企業、寺院、行政等で構成。）のメンバーとして、公園及び周辺地域のにぎわい創出の取組に参画した。

a 各施設管理者との連絡調整

各公園施設の管理者が情報交換し、相互の事業の調整や協力、安全確保等のために協議する「梅小路公園・施設管理者連絡会」の事務局を本協会が担い、日常業務の連絡調整等を行っている。（第 28 回会合 6 月 21 日、第 29 回会合 11 月 15 日）

b 「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト」環境整備業務の受託

京都駅から公園に至るルートの環境整備を目的とする巡回、モニタメント等の

清掃、案内の維持管理、フラワースポットの維持管理を行った。

c 「資源がくるり」プロジェクトへの参画

京都出身のバンド・くるりを中心として公園で行われる「京都音楽博覧会」の飲食ブースで生じる食品残渣を堆肥化し、公園花壇、京都水族館（里山ゾーン）に還元するプロジェクトに、落葉の提供やコンポストステーションの管理等に協力している。6年度は3回目の堆肥が完成し、3月24日に公園ボランティア2団体に引き渡された。また、芝生広場周囲の樹木付近の「土中環境」を改善するワークショップも堆肥を利用して行われた。

d 各種イベントの受付け、開催協力

年度内に開催された比較的大規模なイベントの例は下表のとおり。各種団体によるイベントは年々増える傾向にある。地域団体等による公益性の高いイベントについては開催協力も行っている。

開催日	イベントの例
第1土曜日	梅小路手づくり市（5月、1月を除く。協会共催事業。）
4月7日、11月3日	循環フェス
4月14日、11月10日	ビーガングルメまつり
4月28日	京都中央メーデー
5月6日	ビートライブ春の発表会（ダンス発表会）
5月12日	京都食肉市場まつり
5月26日	下京区民グラウンドゴルフ大会
6月9日	スルッとKANSAIバスまつり
6月30日、9月1日、11月9日、3月16日	ものづくりPark マルシェ
7月13～15日、11月4日、12月14～15日、2月22～24日、3月27～30日	ジョイナスマルシェ、京都おいも大作戦
9月14日	下京ふれあいコンサート
9月15日	リベレーションフェスタ（人権啓発の交流イベント）
9月28～29日	Made in 京都フェスタ
10月12、13日	京都音楽博覧会 I N梅小路公園（京都出身バンド「くるり」を中心とした野外コンサート。協会特別協力）
10月19、20日	日・タイ・カルチャーフェア
10月26日	下京区・南区の児童館と学童保育所まつり
10月27日	建ちゃん祭り（建設ものづくり体験ブース出展）
11月16日	JA京ベジフェスタ
11月17日	消防団フェスタ
11月23～24日	京都ブックサミット
2月22～23日	京都ソーデーウォーク
3月20日	京都さくらパレード
3月22、23日	環境活動啓発イベント Do You Kyoto（音楽・ダンス発表）

ウ 宝が池公園子どもの楽園指定管理業務

安全で清潔な空間の維持に努め、平日のイベント開催、開園時間の30分間延長（7月20日～8月25日）など利用者のニーズ対応に努めた。水遊びができる親水空間が人気だが、夏休み期間は猛暑日が多く、前年度に引き続き特に午後の来園が伸び悩んだ。

エ 円山公園指定管理業務

名勝円山公園保存管理計画に示された本質的価値を継承する管理運営を行う必要があることから、京都の造園業界との協力による植物等管理保全や、公園周囲の魅力の発信など体制づくりを行った。公園区域内に便益施設が多くあり、車両通行できる道路もあることから、公園関係車両以外の侵入禁止エリアを明確にすることや、危険木、繁茂した低木類の剪定を行うなど、安全の確保に努めた。

a 京都市名勝円山公園利活用検討会の開催

地域団体、商店街、公園内便益施設、隣接社寺の方々（以上、委員）、京都市（オブザーバー）及び指定管理者の参加により公園利活用について検討する「京都市名勝円山公園利活用検討会」を10月25日開催。委員の互選で新会長に原悟氏を選出した。催事や公園管理等について意見を伺った。（出席委員7名）

b 京都府造園協同組合との協力による保全管理等

高い技術力を有する京都の造園業界の協力を得て公園の景観を保全管理していくため、京都府造園協同組合と協力関係を結び、維持管理にあたっている。

・**サクラの樹勢回復** 公園内に多数あるサクラの樹勢回復が大きな課題であることから、6年度分としてラジオ塔エリアのソメイヨシノに壺状土壌改良を施した。

・**マツ枯れ対策** マツ枯れが20本（前年度6本）と多く、特に9月以降急速に増えた。被害まん延防止と安全のため枯れたマツの伐採を2月までに行った。薬剤の樹幹注入は6年度対象外だった約40本も含め、前倒しで全部のマツに実施した。

・**クビアカツヤカミキリ対策研修会** 9月6日 和順会館、円山公園

サクラ、ウメなどバラ科の樹木を枯らし、繁殖力が強い特定外来生物クビアカツヤカミキリが、京都府内や京都市隣接の大阪府内で被害をもたらしていることから、サクラの多い円山公園において、早期発見と防除のための技術研修会を開催し、座学と実演、実習（防除ネット張り、薬剤樹幹注入）により学んだ。

主催：本協会・京都府造園協同組合・京都府 共催：（一財）京都造園建設業協会

協力：京都市建設局、きょうと生物多様性センター

講師：宗實久義氏（樹木医）

参加者 組合員38人、京都市職員など関係者計60人、助手6人

・京都府造園協同組合職業訓練校技術研修（土壌改良、クビアカツヤカミキリ対策等）

1月16日 講師 小島俊男氏、青山広晴氏（同組合）受講者8人

c （一財）京都造園建設業協会による京都市への剪定寄附 1月22日

毎年度、社会貢献と技術PRを兼ねて公園や街路樹等の剪定の寄附を行っている京都造園建設業協会が、京都市への寄附として、ひょうたん池東側のマツ8本を含む21本の高木の剪定を行い、本協会も作業に立ち会った。参加技術者約50名

d 3者協定（京阪園芸（株）、（学）京都文教学園）

公園の利活用などの取組を地域連携、次世代の参加を得て進めるため、緑化関連イベントの実績が豊富な京阪園芸（株）、幼稚園から大学院までを運営し公園近くに本部がある（学）京都文教学園との連携協定を令和5年に結び、イベントに生かしている。なお、公園外において、キクタニギクに関する指導（京都文教小学校、京都文教大学シニア大学）、高校生が観光による地域課題解決の提案を競う「観光甲子園」への京都文教高校探究ゼミ（4人）の応募（地域探究部門でグランプリ受賞）等に協力した。

e イベントの実施

① 円山公園・東山ウォーク

園内や周辺の名所旧跡、京都一周トレイル（東山コース）などを歩き、体を動かしながら東山の歴史文化に親しんでいただくウォーキングイベントを2回実施。円山音楽堂に集合し、京都文教大学の指導による準備体操を行ってから歩いた。

5月12日	公園～栗田神社～将軍塚(東山山頂公園)～知恩院～公園	22人
11月30日	一般向け(公園～古川町商店街～岡崎～南禅寺)／健脚コース(公園～将軍塚青龍殿～栗田口)	17人(一般向けコース8人、健脚コース9人)

② 季節の花の展示

- ・ハナショウブ飾り 5月24日～6月7日 ‘鷹の爪’、‘古照田’等7品種の鉢をひょうたん池のカキツバタの近くに沈め、飾った。
- ・ヒオウギ展示 7月16日～26日 円山公園管理事務所前
祇園祭(前祭、後祭)に合わせ、野生種ヒオウギを展示した。
- ・フジバカマ展示 9月27日～10月14日 円山公園管理事務所前
- ・京都ゆかりの菊展示・お花見会 11月2日～17日 円山公園管理事務所前
将軍塚から円山公園に向かって流れる菊溪(菊谷川)にかつて自生していた野菊キクタニギク(地域絶滅)と、京都で継承されてきた栽培ギクである嵯峨菊、懸崖菊を展示。最終2日間は無料のお茶席を設け、高校生、大学生による外国人接待も行った(計200人接客)。キクタニギクの押し花を使ったしおり作り(11月3日、38人)
- ・盆梅展示 3月1日～9日 円山公園管理事務所前
花のない季節の彩りとして、「長浜盆梅展」が毎年行われる慶雲館(滋賀県長浜市)から盆梅4鉢を借り受け、展示した。(協力・(公社)長浜観光協会)

③ 竹あかりイベント 12月22日 17～20時

来園者が少ない冬季の夜間に、「竹あかり」(竹灯籠)を並べ、夜の賑わいを目指すイベント。竹材は(特非)京都発!竹・流域環境ネットの協力を受け、高校生(京都文教高校、京都府立久御山高校)らが灯籠づくりを進めた。開催日はあいにく少雨となったが、高校生15名が設営を行い、国内外の来場者に案内や竹に関するクイズ等を行った。来場者約50名。

④ 歴史・文化・環境セミナー

名勝円山公園と東山の歴史文化や自然環境について知り、親しんでいただくためのセミナー。

6月23日	和順会館～円山公園	「名勝円山公園の本質的価値について」福井亘(京都府立大学教授)	20人
10月27日	和順会館～円山公園	「名勝円山公園 庭の風景を愉しむ」井原縁(奈良県立大学教授)、加藤友規(植彌加藤造園(株)社長、京都芸術大学教授)	19人
11月4日	円山公園管理事務所	「キクタニギクの保全」藤井肇(京都府希少野生生物保全推進員)(菊の展示関連企画)	9人
3月16日	和順会館	「桜を知って楽しもう」今西純一(京都大学教授)、大原隆明(富山県中央植物園企画情報課長補佐)	50人

⑤ 京都円山公園マルシェ

京野菜、バラ、花苗、地元の福祉施設のスイーツ、雑貨の販売、キッチンカー、宇治茶の魅力を発信する学生グループのお茶体験ブースなどが出店

- ・第1回 6月29日 14店舗 ラジオ塔周辺エリアの南側

・第2回 10月26日 10店舗 ラジオ塔周辺エリアの南側

オ 多世代向け事業(プレイパーク、青空健康づくりプログラム等)

梅小路公園、宝が池公園子どもの楽園で、子どもの「遊び、学び、体験」の場を提供するプレイパーク事業を行った。平日にも乳幼児と保護者、平日放課後の小学生を対象としたプログラムや多世代が交流できるプログラムを行った。また、だれもが気軽にできる運動としてウォーキング教室等の健康づくりプログラムを実施した。

a 梅小路公園プレイパーク

NPO 法人京都子育てネットワークとの提携により、昔遊び、集団遊びに加えて、竹細工を用いた遊びなどを取り入れ、四季や自然を感じながら想像力豊かに遊べる遊び場として、月2回開催した。

- ・活動日 原則第2土曜日(時間短縮開催)、第4日曜日
- ・実施回数23回 ・参加者数のべ1,936人

b 宝が池公園子どもの楽園プレイパーク

自由な遊びを中心とする通常プレイパーク活動と特別イベントを実施。このほか、遠足等の団体に対するプログラムを事前予約で実施した。

① 通常プレイパーク・森カフェ

プレイパークゾーンで日曜日に集団あそび、昔あそびなどを楽しんでもらうほか、第2火曜日に森カフェを同時開催。森カフェは自然に囲まれた環境でおしゃべりやランチを楽しみながら子育てにかかわる悩みの相談や情報を交換できる場(共催・森のようちえんどろんこ園)。

- ・活動日 日曜日及び第2火/木曜日(森カフェ同時開催)
- ・実施回数36回 ・参加者数 のべ4,452人(うち森カフェ380人)

② けむんぱクラブ(宝が池ミニプレイパーク)

平日に4歳児までの乳幼児と保護者(親子)を対象に、森の散歩やものづくり等を通じて、親子や参加者間のつながりを深めるプログラムとして実施。

- ・開催日 8月を除く毎月第2金曜日(午前・午後2クラス)
- ・実施回数 計23回 参加者数 のべ372人(1日体験、団体プログラム含む。)

③ けむんぱ「森林向上委員会」

児童と保護者(親子等)を対象に、プレイパークゾーン等の森の整備や散歩等を通じて、参加者間のつながりを深めるプログラム。

- ・実施回数4回 参加者数 のべ87人

④ 特別イベント

- ・こいのぼりを作ろう 4月14日 27名(5月連休まで掲揚)
- ・昭和デー&龍虎伝説(昭和の遊び等を楽しめるイベント) 5月5日約1600人
- ・左京・東山児童館まつり(2024左京・東山児童館学童保育所まつり実行委員会主催・当協会共催) 5月18日 約1400人
- ・どんぐりまつり2024 11月3日 約1400人

c 青空健康づくりプログラム

① ウォーキング教室

だれもが気軽にできる健康増進プログラムとして、健康運動指導士・ヘルスケアトレーナーを講師として、梅小路公園の芝生広場でウォーキング教室を開催。運動不足などを原因とするロコモティブシンドローム(運動器症候群、通称ロコモ)予防のメニューを多く採り入れた。8月の2回は熱中症アラートのため中止した。

- ・内容 ストレッチ、正しい歩き方指導、筋トレ、脳トレ、バランス運動、簡易体力測定、アンケート等
- ・開催日 第2・4火曜日 21回のべ722人参加

カ 公園ボランティアの運営、連携、支援

梅小路公園、宝が池公園子どもの楽園にかかわるボランティア活動により親しまれる公園づくりを進めた。梅小路公園では、花壇管理、ビオトープ運営、市電車両（総合案内所等）の保全を中心とし、宝が池公園子どもの楽園では、子どもの自然体験のサポートを中心として協力関係づくりと支援を行った。

a ボランティア組織「梅小路公園・花と緑のサポーターの会」の運営

週2回の定例作業日に園内の花壇等の植栽の手入れを行うほか、講習会の運営補助、公園内外の普及啓発イベントや緑化活動への協力等を行っている。

- ・活動回数 82回、参加人数のべ1,142人

b 梅小路公園「園芸セルフケア教室」

園芸セルフケア教室（(1)ウ）の参加者による園内花壇の整備活動。

c 市電車両の保全管理及びチンチン電車普及啓発のボランティア活動

市電車両（チンチン電車、市電ひろば車両及び総合案内所として活用する車両）の清掃、点検、簡単な整備、保全管理のアドバイス、運行当時の写真、模型やパーツの展示等の普及啓発にご協力いただいている。（市電ひろば協会の、日本路面電車同好会関西支部、京電会）

キ 社会体験活動、インターンの受入れ

梅小路公園で市立白河総合支援学校生徒のべ40人の社会体験活動を受け入れ、ボランティアとの協働作業など、5～7月の計8日間、管理活動を行っていただいた。

子どもの楽園で京都産業大学生命科学部の学生2名（5～7月）、円山公園で京都大学大学院地球環境学舎の留学生1名（1～3月）のインターンを受入れ、管理運営にも生かした。

ク 平安神宮神苑「平安の苑」維持管理

平安時代の歌に詠まれた植物を展示する「平安の苑」の管理業務を継続して受託した。

ケ さすてな京都（南部クリーンセンター）千両松の保全

宇治川に秀吉が築いた淀堤にあった「千両松」苗木育成管理の支援業務。

(8) 広報・出版

ア 広報誌・パンフレット等の発行

a 『京のみどり』（季刊）の発行

緑に親しみ歩いていただくためのマップ、地域の緑を守り育てる団体の取組等を伝える特集を掲載。優れた日本庭園の見方やグリーンインフラ・雨庭の事例を紹介するシリーズ、園芸相談、本協会事業、京都市の公園緑地施策等の情報を紹介した。

- ・各号の特集の概要・テーマ抜粋

第111号（夏号） 7月発行	特集「持続可能な森林づくりの新たな潮流」／雨庭連載「雨庭は『和の花』の生育地」
-------------------	---

第 112 号 (秋号) 10 月発行	特集「京都ゆかりの花キクタニギクの再生へ」／雨庭連載「伝統的雨庭研究が土木学会論文賞を受賞―相国寺枯山水に美しいだけでなく重要な機能を発見！」
第 113 号 (冬号) 12 月発行	特集「梅小路公園『朱雀の庭・いのちの森』が自然共生サイトに認定」／雨庭連載「注目される京都の雨庭―プラットフォームに参加して、みんなで地域雨庭を！」
第 114 号 (春号) 3 月発行	特集「ボタンの美しさと恵みを求めて」／雨庭連載「雨庭を作って育てる楽しさと well-being を実感 (九州産業大 CELL)」

・部数 各号 7, 000 部 (配布場所・配布先：市政案内所、区役所・支所、市立図書館、公園愛護協力会、全国の緑化団体等)

イ ホームページによる発信

情報提供のため、法人、梅小路公園及び子どもの楽園の共通ホームページ (<http://www.kyoto-ga.jp/>) を運営している。アクセス件数 Visits (※) は 589,920 件であり (前年度比 30.7%減) と、140 万件以上あった平成 30 (2018) 年以降減り続けている。このほかに円山公園、深草墓園の利用案内のサイトを運営している。また、梅小路公園、子どもの楽園、円山公園 (花見期間) では Instagram での発信を行っている。

※Visits (訪問者数＝セッション数) 30 分以内の同一 IP をカウントしない実質のアクセス数の指標。なお、時間に関わりない www.kyoto-ga.jp の Hits 数は約 1,100 万件。

ウ 造園専門誌への記事掲載

造園専門誌「LANDSCAPE DESIGN」(マルモ出版)の 10 月号において、「京都市のパークマネジメント」を特集することとなり、京都市及び他の 2 団体と協力・分担し、本協会は、円山公園、梅小路公園の取組についての報告を提供した。

(9) 調査・情報収集

施設管理や情報発信の基礎資料とするため、モニタリング等の調査・情報収集を行った。(7)エの 3 者協定のほか、前年度に京都府立大学大学院生命環境研究科、京都大学大学院農学研究科森林科学専攻、京都先端科学大学との間で、包括連携協定を結んでおり、これら研究教育機関との連携協力も行った。

ア 梅小路公園いのちの森モニタリング調査

京都ビオトープ研究会のいのちの森モニタリング活動への協力を行い、開園から 27 年を迎えた森の変遷を記録した。生き物を紹介するパネルを掲示し、来園者にモニタリング調査の様子も紹介している。

イ 梅小路公園ウメ・サクラ毎木調査

寄附木を含め、多様な品種があるウメ・サクラの毎木調査を実施し、梅林付近の見どころマップを制作するなど、緑の情報発信の基礎的資料としている。

ウ グリーンインフラ・雨庭の調査研究

グリーンインフラ (GI) や雨庭の調査研究と普及を目指す「京都雨庭研究会」を事

務局として運営し、情報収集や企業等の相談に応じた。

- ・世界銀行東京開発ラーニングセンター（TDLC）・東京防災ハブによる「都市と気候変動」をテーマとする研修への協力（3月5日）令和4年、5年に続き、森本理事長が雨庭等グリーンインフラに関する講演、都市デザイン演習の講評などを行った。
- ・相国寺裏方丈庭園の雨庭機能等に関する研究論文「伝統的雨庭としての相国寺裏方丈庭園の雨水管理性能の実測と評価」（主著者・山下三平九州産業大学教授、土木学会論文集 vol. 79）が土木学会論文賞を受賞（6月14日表彰）。伝統的雨庭研究会（代表・森本幸裕理事長）のメンバー5名の連名。本協会『京のみどり』雨庭シリーズで紹介してきた伝統的な日本庭園のグリーンインフラとしての機能が注目された。

I-2(公2)京都の庭園の保全管理、庭園文化・技術の継承及び発展に寄与する事業

決算額 26,995 千円（予算額 23,715 千円）

京都の庭園の保全管理、庭園文化・技術の継承及び発展に寄与することを目的に、庭園の保全管理業務、庭園講座等への活用及び優れた庭園に関する情報発信等を実施。

ア 梅小路公園「朱雀の庭」の良好な維持管理と運営

京都が長年培ってきた造園技術を用い、伝統と創生が調和した「朱雀の庭」について、管理保全指針に基づく景観づくりに努めるとともに、活用策としてイベント等を行った。

ア 紅葉まつり

例年好評の「朱雀の庭」ライトアップを自主事業として実施した。環境対策として、LED 照明、太陽光発電・蓄電による電源を一部に使用し、また児童がライトアップを楽しむことができるよう、植物や電気、環境についてのクイズを実施した。モミジの紅葉が例年より遅く、期間後半になってから紅葉の見頃を迎えたことから、入園者数は 20.2%減となった。

- ・期間 11月15日～12月1日（15日間） 入園者数 3,127人（前年度 3,920人）
- ・電源・クイズ協力 （公財）京都市環境保全活動推進協会、Eco Flow Technology Japan(株)

イ 庭園情報の収集・発信

京都の優れた庭園の情報を収集し、広報誌「京のみどり」、ホームページにおいて、庭園を実際に訪れていただくための発信を行った。

ウ 庭園文化講座等

日本庭園に関連する「緑の文化」、伝統的技術について理解を深めていただくことを目的に、庭園デザインや関連分野の建築・茶道等の様々な視点から庭園文化を学ぶ講座を実施した。

ア 京の庭講座

- ・講師 武田純氏、小島裕史氏、井上剛宏氏
- ・受講者 のべ 47人
- ・各回の実施内容

第1回	1月24日	各時代を代表する京都の日本庭園の紹介
-----	-------	--------------------

第2回	2月 7日	祖父 小島佐一の庭を読み解く
第3回	2月 21日	朱雀の庭作庭意図、作庭時から年数を経た庭の再構成

6 庭園ガイド活動

朱雀の庭・いのちの森の利用促進のため、個人向けガイド活動を土・日曜、祝日に実施した。

・案内実績 のべ 290 人

II 公園収益事業

決算額 157,434 千円（予算額 157,459 千円）

梅小路公園、宝が池公園子どもの楽園指定管理業務の中での収益事業、国立京都迎賓館庭園保全管理業務、深草墓園指定管理業務の受託等を行い、その収益を公益目的事業及び法人業務の財源とした。

このうち指定管理事業では、公園収益事業収入はコロナ前の水準まで回復した。また、自動販売機手数料等収益は夏季の異常高温の影響で伸び悩んだ。

ア 自動販売機飲料販売事業

飲料自動販売機の収益は前年度並みの収益となった。円山公園の自動販売機収益は京都市に 80%還元している。

イ 梅小路公園収益事業(貸室、遊戯用電車等)

貸室の収益は、前年度と比べて微減となった。遊戯用電車の運行業務は、車両トラブルによる運休が無かった（前年度は 3 か月運休）ため、前年度よりも 37%増加した。

ウ 宝が池公園子どもの楽園駐車場運営事業及びキッチンカー出店

夏季の異常高温などのため、駐車場台数は前年度に比べ約 10.0%減少し、駐車時間も約 12.1%減少した。

来園者の利便性向上を目的として、新たに 6 月から、キッチンカーによる軽食等の販売を実施した。

・毎週日曜日実施（雨天を除く。） のべ 38 台

エ 国立京都迎賓館庭園維持管理事業

京都が長年培ってきた造園技術の集大成ともいえる京都迎賓館庭園について、内閣府からの受託事業として、管理保全指針に基づき、造園に携わった造園業者とともに計画的な景観づくりに努めた。

オ 深草墓園指定管理業務

納骨堂及び樹木型納骨施設の年間の使用許可件数は微増傾向にあり、6 年度は約 2.1%増加した。6 年度は納骨堂の耐震・カロート拡張工事に対応した安全確保、参拝者が京都の季節の花に親しみながら散策できる和の花散策コーナーの充実などに努めた。秋・春の式典（京都市主催及び遺族有志代表主催）では、参列できないご遺族

のため、式典の模様をライブ配信した。

- ・累計使用許可件数 27,001 件（納骨堂 26,324 件、樹木型納骨施設 677 件）

カ その他公園収益事業

京都市都市公園条例に基づき、梅小路公園、宝が池公園子どもの楽園、円山公園において、業として行う写真（動画）撮影の撮影料の徴収を行った。特に円山公園においては、写真館等による婚礼写真の申請が前年度に比べ増加した。

Ⅲ 法人業務

決算額 2,813 千円（予算額 3,472 千円）

公益認定関連の法令及び内外の情勢に対応し、法人業務を行った。

(1) 理事会・評議員会

理事会を 2 回、評議員会を 1 回、いずれも会場（協会本部事務所）とオンラインを併用した。また、理事・監事・評議員、理事長及び専務理事の選任について、決議の省略（書面決議）によるみなし理事会、みなし評議員会を各 1 回行った。

【理事会】

回	開催日	主要議決事項
第 28 回理事会 （オンライン併用）	令和 6 年 6 月 3 日	令和 5 年度事業報告及び収支決算の件 定時評議員会の招集の件
書面決議（理事会 の決議省略）	令和 6 年 7 月 18 日 （決定日）	理事長選任の件、専務理事選任の件
第 29 回理事会 （オンライン併用）	令和 7 年 3 月 19 日	令和 7 年度事業計画及び収支予算の件 令和 7 年度資金運用の執行方針及び計画の件

【評議員会】

回	開催日	主要議決事項
第 15 回評議員会 （オンライン併用）	令和 6 年 6 月 18 日	令和 5 年度収支決算の件 理事選任の件、監事選任の件、評議員選任の件
書面決議（評議員 会の決議省略）	令和 7 年 3 月 28 日 （決定日）	理事選任の件

(2) 個人情報取扱事務の安全確保措置の改善

令和 6 年度以降の京都市発注の委託契約において個人情報取扱事務の安全管理措置の確認が行われるようになったことを契機に、本協会内の取扱事務の点検を行い、データ管理方法等の一層の改善を図った。

(3) KES環境改善活動等の環境対策の実施

KES（環境マネジメントシステム・スタンダード）の環境改善活動は、3 期目として、引き続き 4 事務所で省資源、地域清掃及び希少植物保全活動等に取り組んだ。

(4) 事業推進積立金への積戻し

令和 5 年度当初に、新たな円山公園指定管理業務などの円滑な推進のため、事業推進積立金 15,000 千円（1 号財産）を取り崩し流動資産に変更した。3 か年で 5,000 千円ずつ積み戻す計画であり、5 年度に続き、5,000 千円を積み戻した。

事業報告の附属明細書について

令和 6 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書の内容である「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので、作成しない。